

**2026年の神美クイズは「知っとこ！神美」にヒントがあります
今後も使用するので保存しておいてね！**

振興部の

知っとこ！神美 2026年1月号

知っておいてほしい神美を紹介します。

たちばなの郷
神美裏路地探検

奥野

奥野城と代官屋敷のいにしえを感じながら巡る 穴見川源流とホタルに会える里

1. 山の神、穴見川源流、ホタル生息地

奥野を源流に神美を縦断し、六方川に合流する全長 5,673mの穴見川。農地を潤す大切な水源はもとより四季折々に生き物を育む清流を守るため、最上流に「山の神」を祀る。川の中では、ヤマメ・カワムツ・アブラハヤ・オイカワ・アカザ・カマツカ・フナ・コイ・ナマズ・沢ガニなどが生息し、**最上流で毎年奥野の子供会がアマゴを放流している。**6月には蛍が舞うとても綺麗な川です。



穴見川源流

2. 雲澤寺

臨済宗

大徳寺派のお寺「雲澤寺」



雲澤寺

3. 三十三観音霊場

神美地区には観音像が多く、かつて属していた出石郡の三十三観音巡りの札所となっていました。同様の縮小版の霊場として、奥野の雲澤寺(うんたくじ)裏山には三十三観音が三開山には四国八十八ヶ所が設けられています。



三十三観音

4. 代官の館「堀之内館」跡地、「奥野城」跡地

穴見川から一段高くなった山裾に弘安 8 年(1285 年)代官の館として知れた「堀之内館」の背後に東城と西城を配した「奥野城」堀之内館を守るように 2 つの山城が築城され、戦国期の堀切・堅堀や帯曲輪が形成されている。

堀ノ内館は穴見川右岸、奥野集落西端、標高約 55m の山裾に所在する。集落との比高は約 13m ほどある。城域ははっきりしないが、東西約 100m 南北約 60m を測る。堀ノ内館の領主について、『兵庫県の中世城館・荘園遺跡』は次のような『但馬太田文』(弘安八年・1285)の記載から、大内庄下司香住孫太郎入道浄阿または預所佐渡入道禅海、またはそれらの代官の館か、としている。(※豊岡市の城郭集成 I より)



堀之内館、奥野城跡地

5. 大生部兵主神社

弘仁元年(810)奥野に兵主の神を祀る。「大生部兵主神社」10月の秋祭では、だんじり行進や餅まき等が盛大に行われている。



大生部兵主神社